

## 2、石棺内出土人骨、遺物

石棺内から、ほぼ全身にわたる人骨が1体分と剣、鉄刀が出土しました。

人骨の出土部分は頭骨、上顎骨、下顎骨、鎖骨、肩胛骨、上腕骨、腰椎、寛骨、

恥骨結合部、大腿骨、脛骨です。肋骨も左右3点出土していますが、正確な位置が不明なので下図には示しませんでした。

頭骨は右側に転げた状態で顔は西壁に向いています。当初の状態ではなく、動かされたと見られます。昨年粘土の被覆を取り外した後に小動物（おそらくは鼠？）が出入りしているようで、動物によって動かされた可能性があります。また、頭蓋骨内に木の葉やビニールの一部が持ち込まれている様子が観察され、小動物が頭蓋骨内部を巣としていた可能性があります。上顎には1本の歯が残されていました。また、下顎の骨は上下が逆さまの状態でした。下顎にも歯が残っているようです。

上半身は鎖骨、肩胛骨、上腕骨、腰椎が残っていました。おおむね本来の位置を保っているようです。肋骨も複数残っていましたが、正確な位置はわかりません。腕の下半分にあたる橈骨、尺骨、手首から先の部分は残されていませんでした。

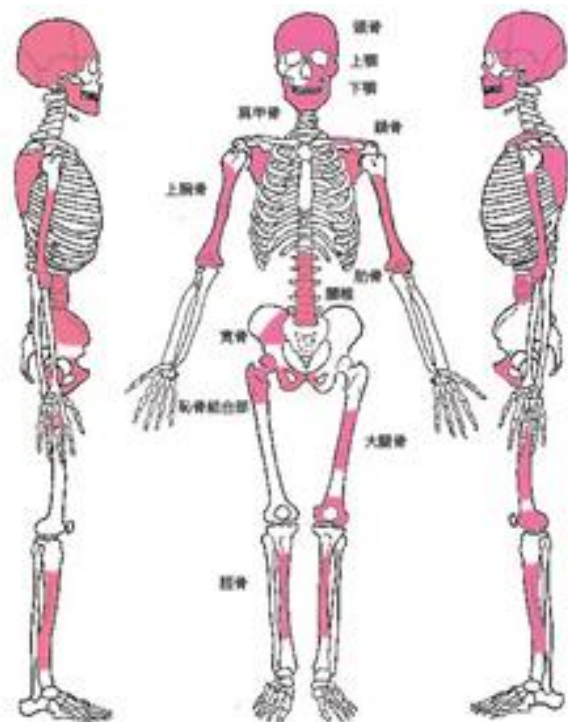
下半身は腰の一部にあたる寛骨と大腿骨の一部、脛の部分にあたる脛骨がありました。脛の外側にある腓骨と足首から先にあたる部分は発見されませんでした。大腿骨の一部と右側の頸骨は明らかに動いていました。頭骨と同じく小動物によって動かされたのかもしれない。

出土人骨は部分的な乱れはあるものの、図に示すように人体を構成する主要な部分があり、ほぼ全身の様子が分かるものでした。奈良貴史新潟医療福祉大学教授のご教示によれば、人骨は男性の可能性があり、頭蓋骨の縫合の様子などからから見て比較的高齢である可能性が高いとのことでした。

棺内からは人骨の他に鉄製武器が出土しています。

人骨の右側にあたる棺西側からは鉄剣が出土しています。出土位置からみて被葬者にとって大切な武器だったのでしょう。長さは50cm程度です。

頭骨の左上、棺内東北角から鉄刀が1振り出土しています。長さは30cmを越える程度です。



第2主体部出土人骨部位  
(着色部分が出土部位)